

第10回徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

と き 令和2年1月31日（金）午後13時30分から午後15時00分

ところ ホテル千秋閣（7階 鳳の間）

1 開会

2 徳島市あいさつ

（第1副市長挨拶）

徳島市第一副市長の平山でございます。本日は大変お忙しい中、第10回を迎えた徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会にご出席を賜り、本当にありがとうございます。

今世間では新型コロナウイルスが話題になっており、感染者の数もSARSを超え、市内でもマスクの購入が難しい状況となっております。現在のところ、徳島県内では新型コロナウイルスに対する検査ができない状況でございます。先般国にも確認したところ、中国の武漢市以外からの帰国者については検査を行える状況ではないとのことでした。このような不安を抱える中で住民の方々は生活を送っているわけですが、こういった広範囲の対応が必要となる感染症対策についても、定住自立圏のような取組が有効ではないかと考えております。今後、ご意見をいただく機会があればどうぞよろしくお願いいたします。

さて、国においては、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略が閣議決定され、令和2年度を初年度とする5か年の目標や施策の方向性が示されたところです。その中で、施策として地域間連携による魅力的な地域圏の形成が盛り込まれており、定住自立圏構想はその具体的な手段の一つとされています。

徳島東部地域では、平成23年から定住自立圏構想に取り組んでおり、現在は平成28年策定の第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンに基づき、様々な連携事業を進めているところでございます。

第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンは令和2年度が最終年度となっており、いわば総仕上げの年になります。圏域の将来像の実現に向け、着実に取組を実行していきたいと考えております。また、次期共生ビジョンを策定いたしまして、令和3年度以降も徳島東部圏域の一層の発展につなげてまいりたいと考えております。

本日の懇談会では皆様方から忌憚のないご意見を賜りまして、地域住民の皆様が安心して暮らし続けたいと思える魅力ある圏域づくりに反映してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。甚だ簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。どうぞ最後までよろしくお願い申し上げます。

3 議事 第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの取組状況及び変更について

（会長）

四国大学の加渡でございます。先ほど、平山徳島市第一副市長からもお話がありましたが、昨年

末に閣議決定された、国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」によりますと、第1期における地方創生の成果と課題として、インバウンドの増加や1次製品の輸出増加という一定の成果は見られたものの、東京一極集中にはまだまだ歯止めがかかっていないという状況でございます。

振り返ってみますと、2019年はラグビーワールドカップ、2020年は東京オリンピック・パラリンピック、2021年はワールドマスターズゲームズ関西、そして2025年は大阪・関西万博の開催が決定しております。そういった世界のムーブメントの中心に位置するこの徳島が、今後SDGsの達成に向け、持続可能な地域づくりを行っていくにあたり、地域の魅力を最大限に生かして、安心して安全で住みよい地域づくりを考えるための、基礎的なビジョンが定住自立圏構想であると考えております。

今日は、委員の皆様のご専門的な立場を超えて、自由に様々なご意見を頂戴できればと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

第一副市長、退席

事務局 資料説明

(会長)

ただ今、事務局から共生ビジョンの20項目の取組状況についてご説明をいただきました。それでは、これにつきまして、委員の皆様のご専門性を生かしたご意見を頂戴したいと思っております。また、現在の共生ビジョンのことだけではなく、次期共生ビジョンに盛り込んでほしい内容も含め、ご自由にご発言いただければと思います。

(委員)

DMOについて、平成30年3月に設置されてから間もなく2年経ちますが、この2年間でどのようなことをやってきたのか、これからどのようなポイントで事業を行っていくのかを説明してください。

それから、新型コロナウイルスについて、先ほども広域的に取り組まなければならないというお話でしたが、大阪でも新型コロナウイルスに関連した感染症の患者が発生しています。徳島と大阪は非常に流通が多い状況で、発症した人が見つかったからの対応では遅いと思います。昨日も徳島県が危機管理の会議をしていたと思いますが、当然県とも一緒になって、一刻も早く取り組んでいただきたい。

(会長)

1点目はイーストとくしまDMOの効果検証について、2点目は大阪との非常に活発な交流を念頭に置いた現在のリスク管理についての質問ですが、事務局から説明をお願いします。

(担当部会事務局)

イーストとくしまDMOは、徳島東部圏域の団体に鳴門市、阿波市、吉野川市を加えた自治体1

5団体で構成されており、事務局は代表者1人、自治体出向職員等4人で運営を行っております。

主な取組内容として、徳島東部地域の特産品PRや観光誘客事業等を行っております。資料3の5～6pに観光誘客の取組について詳しく記載しておりますが、例えば、インバウンドを含んだ取組として、台湾・東京・大阪・札幌・福岡など、国内外で観光セールス活動を行っております。来年度も引き続き観光セールス活動を行ってまいります。セールス活動の機会設定などについては徳島県観光協会などとも協力しながら、引き続き努力してまいります。

危機管理の件については、徳島県の危機管理部が中心となって取り組んでおり、具体的な取組としては主に旅行代理店やホテル等において、手洗い・うがいの詳細な実施方法について英語・中国語など4か国語で案内を行っております。また、状況に応じて順次対応してまいりたいと考えております。

(委員)

イーストとくしまDMOにつきまして、少し補足説明させていただきますと、同DMOの活動は2年目というところで、現状はまだまだ「種蒔き」の段階にあると思います。

1段階目として、まずは強いコンテンツを活かしてエリアに人を呼び込む動き、次に2段階目として、そのエリアに来た人を、各市町村やそれぞれの民間事業所が個別に自分たちのところへどう引き込むか、という2段階で考えるべきだと思いますが、まだ現在は1段階目のところで、エリア全体の魅力や強いコンテンツをいかに整備して、情報発信するかというところが活動の中心になっています。

今後はDMOと市町村、民間事業者が一体となって、より具体的な取り組みを行っていく必要がありますが、成果が上がるにはまだ少し時間がかかるかもしれません。

足もとの具体的な取り組みとしては、WEBによる地元おススメ情報の発信やナイトコンテンツ整備などを行っていますが、まだまだ周知不足の面は否めません。今後さらにSNS等を駆使して、ならではの観光スポットや店舗情報を発信するほか、宿泊施設などとも連携しながら、いかにインバウンド客や県外の旅行者にその地域の魅力的な情報を届け、実際に訪れてもらうかがポイントになってくると思います。

あとは、徳島駅前の中心市街地の魅力づくりにも重なりますが、観光情報発信の拠点機能が課題であると思います。現在は徳島駅前に2か所観光案内所がありますが、どちらもわかりづらい・他の観光地と比べ貧弱、との意見をよく耳にします。県都の顔である徳島駅前に、徳島市だけでなく東部圏域、さらに県内全域の観光情報が集まる拠点を、お金や人をちゃんと工面して、きちんと整備する必要があると思います。インバウンドについても、ホテルだけでなくゲストハウスや民泊なども含めて、県内では徐々に増えつつあり、今後も増加が予想される中で、インバウンドの受入態勢を含めた支援を、もう少し考えて強化していく必要があるのではないのでしょうか。これは来年度以降の申し送りというか、そういったテーマで考えてもよいのではないかと思います。

(会長)

東部圏域の入り口となる徳島市としても観光の拠点、おもてなしの拠点、情報発信の拠点、そういったものの整備が必要ではないかというご意見でしたが、何か施策として展望はありますか。

(担当部会事務局)

徳島駅前の観光・宿泊案内所については、以前から不便である、わかりづらいといったご意見はいただいておりますので、十分検討していきたいと考えております。

(委員)

徳島小松島港にクルーズ客船が寄港すると、一度に3,000人から4,000人もの乗客が徳島に訪れることとなりますので、観光PRの大きなポイントになるのではないかと考えています。現在、共生ビジョンの「観光開発・観光誘致事業」については、全市町村が連携市町村となっておりますが、クルーズ船寄港の際に観光PRを行っているのが徳島県と小松島市だけで、恐らく徳島市や東部圏域の市町村の観光情報などはPRされていないのではないかと考えています。

例えば、小松島市に直接お金が落ちなくても、東部圏域の他の市町村に落ちることになってもいいと思うので、もっとクルーズ船を利用して観光PRをしていけばよいと思います。昨年も勝浦町のひな祭りや花火、鳴門市の大塚国際美術館などへバスが出て、クルーズ船の乗客が訪れていますので、DMOの取組などについても、クルーズ船の乗客に向けてもっと観光PRできるのではないのでしょうか。結構大きな要素になるのではないかと考えています。

(担当部会事務局)

クルーズ船に関しては、以前徳島市まで無料の循環バスが出ていました。徳島小松島港から小松島市のあいさい広場を経て、徳島市の阿波おどり会館前にというコースが組まれていましたが、あまり経済的な効果が得られなかったようです。

原因として、例えば、阿波おどり会館の講演が満席で入れないなど、乗客を受け入れるキャパシティに問題があったほか、乗客からは「風呂に入りたい、徳島ラーメンを食べたい」という要望がありましたが、クルーズ船が寄港する早朝の時間帯ではラーメン屋や銭湯が開店しておらず、こうしたニーズに応えられなかったことも要因の一つであったと思います。クルーズ船は1日停泊するわけではなく、昼には出港してしまうので、限られた時間にどれだけ工夫してツアーなどを組めるかという問題がかなり大きいと思います。

そうした中、クルーズ船寄港に対する徳島市の取組としましては、阿波おどり会館から徳島駅前までの無料のバスを出すところまでは行えましたが、そのあと乗客をイーストとくしまDMOの取組に呼び込み、東部圏域全体にお金を落としてもらうといった結果にまでつなげることができなかったと思います。

また、観光客船の主導が徳島県にありますので、今後は、クルーズ船寄港のタイミングなど、県と各市町村が情報共有を積極的に図り、計画的に対応ができればと考えております。

(会長)

クルーズ船は一度の寄港で乗客が3,000人ほどとして、クルーズを合わせると非常に多い人数が一度に上陸するので、逃す手はないと思います。何とか東部圏域全体で、限られた時間の中で分散させ、みんなで利益を受けられるようにできればいいのですが。

観光以外の、ほかの観点から皆様いかがでしょうか。

(委員)

3点ほど、教えていただきたいのですが、資料3の8pの「コミュニティビジネス起業支援事業」について、コミュニティビジネスセミナーを受けた方が起業をした、という情報がわかれば今後役立っていくように思います。そういった実績があれば教えてください。それと、11pの「鳥獣害対策推進事業」について、目標値は達成されていますが、例えば侵入防止柵ができたことによって鳥獣被害がどのような状態になったかがわかれば教えてください。あとは22pの「地域づくり活動団体等育成・支援事業」について、参加者数が昨年より増えています、あえて進捗評価をBにした理由があれば教えてください。

(担当部会事務局)

コミュニティビジネスのセミナーにつきまして、今年度は9月に4回実施しております。実績については、平成30年度の実績で徳島市の創業者のうち、2人がコミュニティビジネス関連の方でした。それぞれ子ども食堂関係、空き家レンタル事業と聞いております。ただ、この実績につきましては、徳島市に関連した創業促進事業補助金の申請者や連絡があった方への聞き取りにより、把握した数となっておりますので、補助金を利用せず創業したり、徳島市外で創業したりされた方がいらっしゃったとしても把握はできておりません。同様に平成29年度は4人、平成28年度は0人、平成26年度と平成27年度は1人ずつとなっております。

(担当部会事務局)

鳥獣害対策につきましては、徳島市でも猪を年400頭ほど捕獲しているほか、他の害獣についても毎日のように問い合わせや通報がある状況です。

侵入防止柵については、今年度は徳島市の上八万町と渋野町で設置する予定としています。設置前後で具体的な数値での比較はできておりませんが、設置後の全ての地域から、収量が増えた、安定したなど、一貫して良い言葉をいただいております、効果のある事業であると考えております。

課題として、侵入防止柵の設置が正常にできていない場合があることから、徳島市としても現地確認や指導などの対策を行うなど、事業が適切に機能するよう努めております。

(事務局)

地域づくり活動団体等育成・支援事業の進捗評価についてですが、昨年度よりも数値が大きく回復しているものの、平成28年度に900人まで実績が伸びていたこと、目標値が1,000人であることも考慮し、概ね順調であるB評価としております。

進捗評価につきましては、定住自立圏の取組を推進するにあたり、成果指標を設定して進捗管理を行っていくことを国から求められている中で、A、B、Cといった段階評価までは求められておりませんが、進捗状況をわかりやすくお伝えするために3段階評価を行っております。

A評価とB評価の基準でございますが、目標値に対して何%であればA評価といった、数値基準までは設けておりません。各年度の推移はどうであったか、新たな取組などで工夫できた点があっ

たかどうかといった点を総合的に判断して、事業の進捗評価としております。

(会長)

こういった計画は、KPIを何にするか、判断する指標がこれでよいかというところも含め、これから色々な検討が必要になってくると思います。ほかに皆様いかがでしょうか。

(委員)

私は小松島市から選出された委員でございますので小松島市の連携について申し上げますと、資料3の4pに「公共施設の広域利用」の取組があります。現在は、広域で利用されている公共施設も数多くあると思います。例えば、私も徳島市のふれあい健康館を利用させていただいており、実際に行くと小松島市の住民もたくさん利用しています。しかしながら、公共施設の広域利用の取組の連携市町村に小松島市が参加していません。これは連携市町村間のコミュニケーションが悪いのか、小松島市民の利用状況を定住自立圏の担当者が把握できていないのか。いずれにしろ、実際に広域で利用されているのであれば、小松島市もこの取組に手を挙げておくべきではないでしょうか。例えば、先ほどのクルーズ船について、徳島市にある阿波おどり会館に循環バスが出ていたというお話がありましたが、阿波おどり会館が徳島市の施設であるということを小松島市に十分認識してもらっていないのではないかと思います。このあたりをしっかりと自治体間でコミュニケーションを取ってもらえればと思います。

もう一点同じ観点で言うと、小松島市の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案にはSDGsが位置付けられていますが、13pの「環境保全活動の推進」の取組に小松島市は手を挙げていない。まち・ひと・しごと創生総合戦略の中にSDGsの取組が入っているのであれば、環境保全活動の推進の取組に小松島市が参画していなければおかしいということを事務局で議論していただけたらと思っています。

(事務局)

それぞれの事業ごとに連携市町村の整理をさせていただいていますが、これは定住自立圏の取組を始める際に、各市町村に意見を伺ったうえで現在の形になっております。

定住自立圏の取組にあたっては、中心市である徳島市と各連携市町村の間で、個別に協定を締結しておりますが、新たに事業に参加していただくには、その協定の変更が必要となります。この協定の変更には議会の議決が必要とされており、すぐに変更というのは難しいですが、次の第3次共生ビジョンを策定する際には、各市町村に色々ご意見を伺いながら策定を行いたいと考えております。

(会長)

本日の懇談会におきましてもSDGsのマークを身に着けている方がたくさんいらっしゃいます。SDGsの17番目のゴールは連携・協働・パートナーシップとなっていますので、是非そういったものも次期共生ビジョンに盛り込んでいただきたいと思います。

(委員)

資料3の16pに「就農支援体制の連携強化」という取組がありますが、私の近所でも、若い方が農業を行っており、農業だけでなく、出荷できないものをフードバンクへ寄付するなど多方面で動いてくれているので、こうした取組を行っていることは非常にうれしく思います。

また、資料4-1の3pに総人口の推移について記載がありますが、学校関係者によりますと、徳島県の小学校の入学者数は全国最低レベルで、高校の入学生徒数も毎年2割減となっており、城西高等学校神山校ではすでに全国からの募集となっているとのことで、心配しております。

それともう一つ、女性農業者の社会参画が大変遅れていると思います。農山漁村女性の日を全国殆どが都道府県一円の大きな枠組みで多数の団体が参集して、学び合い、良い刺激を受け合い、意欲を高めるいい機会となっていますが、本県は吉野川農業支援センターが開催しているのみであることは残念です。また県が最初の男女共同参画社会基本法策定時に、女性参画が遅れている農山漁村の女性に取り組む項目を、多岐にわたりあげたものの、今や数行で、一次産業の女性の地位向上に十分な対応ができていないと危惧しております。

また農業高校の冠がない全国二つ三つの数少ない県で、それが農村の衰退や過疎化を早めているのではないかと懸念しております。

資料4-1の4pにありますように東部圏域の将来像が「ひとをつくり・地域を興し・未来につながる みんなで暮らし続ける魅力ある共創交流圏」となっていますが、地域づくりについても女性参画を進める必要があると思います。東部圏域ではありませんが、非常に活発に活動されていて、国から表彰を受けている市民団体が阿南市にあります。実際にその市民団体の会合へ参加してみたのですが、本当に住民が自分たちで考えることなのかと思うほど、地域おこしを活発に行っています。この市民団体の活動においても、女性が参加していることが非常に大きな役割を果たしています。

残念なことに日本は、2019年の男女平等の度合いを数値化したランキングでは、121位となっています。また、子どもの6～7人に1人は貧困家庭と言われており、私は、日本は豊かな国とは言えないと思っております。こうした状況の中、もっと女性の視点を生かしていただきたいと考えています。SDGsにおいても女性参画の視点が重要とされており、この懇談会の中でも皆さんと一緒に、徳島の人口減少が少しでも緩やかになるように活動できればと思っております。

(会長)

農業支援及びそれに対する女性参画の視点等について事務局からお願いします。

(担当部会事務局)

新規就農者の支援については、各市町村だけでなく、徳島県の農業支援センター、金融公庫などが様々な形でサポートを続けているところです。女性農業者の方への支援という点で申しますと、実際には至っていないところがあるかと思いますが、県農業支援センターや農業委員会と連携しながら、女性農業者の支援についても検討してまいりたいと思います。またご意見ご指導をお願いいたします。

(委員)

資料3の6 pに記載があるとくしま動物園のリニューアル工事ですが、こうした取組により動物園の入園者数はどのように増えているのでしょうか。また、多額の工事費用に対して、どのような集客を見込んでいるのか教えていただければと思います。

(事務局)

とくしま動物園の入園者数や集客の見込みに関する資料等については、本日持ち合わせてはおりませんが、とくしま動物園ではリニューアル事業により、動物園の魅力を向上させることによって、さらなる入園者の増加につなげようと考えております。工事につきましては、今年度はミーアキャットやフラミンゴの獣舎を新設いたしました。また、定住自立圏の取組としましても、平成30年度から毎年、動物園の無料招待券を圏域内の各自治体の成人式で新成人に配布するなど、圏域住民に来園を促しております。

(委員)

「就農支援体制の連携強化」について、私は石井町の住民ですが、石井町においても農業は高齢化が進行しており、廃業後は農地の荒廃を防ぐため、農機具屋さんに管理をお願いしているところが多くなっています。しかしながら、それにも限度がありますので、なかなか農地の管理を受けてもらえない状況です。

資料3の16 pを見ると、技術取得された方が100人おられるということですが、その方々で実際に農地を借りて作農してみようという方がいっしょにいれば、その方々に農地の情報を提供する、紹介するといったことはお考えでしょうか。

(担当部会事務局)

就農支援体制の連携強化の取組については、徳島県が年5～6回開催している農業技術講習会に参加する人数を成果指標としており、今年の2月の講習会分を見込んで令和元年度の実績見込みを100人としております。新規就農者を対象として農業について学んでいただくという講習会ですが、いただいたご意見につきましては、徳島県にも伝えさせていただきます。徳島市としても、耕作放棄地の対策としてJAと協力し、機械の無償貸借の契約を結んでおり、こうした取組についても周知を行ってまいりたいと考えております。

(会長)

農業技術を身に着けた人、農業をしたい人と土地を持っていて管理を頼みたい人を東部圏域全体でエリアとしてマッチングができればとても良いのではというご意見でした。

(委員)

私どもは上勝町で、観光業をメインに事業を展開しております。民間の株式会社ではどうしても収益が優先となるところですが、行政とも協力しながら事業を行っていく中で、弊社ではサステイナブルツーリズムとして修学旅行生や新人研修の受け入れなどを行っています。定住自立圏という

ことで、定住につながるような色々な施策をセクターや地域で分けて行っておられますが、民間として事業を行う中で、定住の一つ前の段階、徳島を訪れる関係人口がどう作用するかが定住につながっていく一番大きな部分ではないかと感じております。

例えば、企業研修や修学旅行は、毎年同じ人が来るわけではありませんが、必ず毎年来ていただいております。そういったところがいわゆる関係人口であると思います。一般のお客様や個人のお客様を重視する、阿波おどりなどの伝統文化へターゲットングしていくということもあると思いますが、当然今までの取組、特に産業振興の部分はそのまま進めるとして、学習的、教育的なツーリズムも一つのPRとして、関係人口の増加につながるのではと思います。

(会長)

関係人口あるいは持続可能性というキーワードをいただきました。上勝町はモノだけではなくコトやヒトをアピールすることに特徴がありますので、一つの参考にできるのではないかと思います。

(委員)

資料3の18pにある「情報システム共同研究事業」がA評価で来年度も継続ということなので、特に申し上げることはありません。今後の方向性のところで、RPA（ロボットによる業務自動化）とあります。昨年度から徳島県で会計事務に業務自動化を入れたところ、会計事務の一部分ですが96%ほどの事務処理労力の削減ができたということです。100分かかっていた仕事が4分でできるようになった。そういった実績が上がったということで、それに関するセミナーを昨年10月に徳島ビジネスチャレンジメッセで開催し、圏域内の行政職員の方にも参加いただいたところで

す。次にAI、人工知能も県で取組が行われており、定例記者会見の音声を即座に文字化するというものです。精度も段々と上がっていますし、さらに要約や、他の言語への変換もできるようになっています。こうしたことがすでに実用化されていますので、このあたりもどんどん情報共有していただきたいと思います。一昨年度にはAI音声認識の多言語翻訳についても徳島ビジネスチャレンジメッセでセミナーを開催させていただいております。今後についても自治体クラウドの共同整備の支援など、情報提供させていただきたいと思いますので、A評価が続くようお願いしたいと思います。

(委員)

現在問題になっていることとして、農業の後継者問題があります。農業が盛んな地域では人を雇って盛んに農業が行われていますが、そうでない地域では高齢化が進行して農業ができなくなっても、後を継ぐ人がいません。農地を放置することで草が繁茂する、猪が住み着くなど、周囲に迷惑がかかるので管理をしなければいけません、そのためには人を雇う必要があります。また、耕作を行ってなくても税金や用水の負担はしなければなりませんし、土地の価値が下がっていることで売ることもできず、大きな負担になっています。

また、農業が減ってくると、外国から輸入することになりますが、輸入が何らかの理由でできなくなったら、日本がやっていけないのではと思っています。

(会長)

地域の中で使われていない土地、建物、資産、これをどのように守っていくかは東部圏域全体の課題であろうと思いますし、次の共生ビジョンに今の視点も加えていただければと思います。

(副会長)

徳島市の新ホールはどうなるのか、そごうの跡地はどうなるのか、中心部の活性化という点で大きな課題ではないかと思います。徳島市民ではありませんが、徳島県と徳島市がどうしてもっと住民目線で考えられないのかと思っています。

地域の資源というのは実際に住んでいる人にはわかりにくいのかもかもしれません。ある意味違う目線から見てこのような良いところがあるのではないかと、そのような意見を出し合えるような会議にこの懇談会がなればと思います。それによって新たな発見もあると思いますし、一番は地元にいる人がそれを知って、非常に良いものだとして理解すること。こうした思いは地元全体に伝播していくのではないかと考えています。また、それによって地元の人に地域の資源や良いところを地元の人にPRしてもらうような活動につながればと思っています。

先ほどナイトコンテンツのお話がでしたが、徳島県と徳島市が行っていたとくしまLED・デジタルアートフェスティバルがなかなか宿泊に結び付かなかったと、新聞に掲載されていました。今はこの事業は止まっていますが、夜のイベントというのを宿泊に結び付けるようなことになればもっとお金も落ちると思います。難しいとは思いますが、高知県のひろめ市場のようにお酒の要素があれば宿泊の可能性も上がりますし、大事なのはそこに地元の人が集まるということですが、魅力あるまちというのを、夜の分野から考えても面白いのかなと思います。

(委員)

来年度が第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの最終年度で、総仕上げになるというお話がありましたが、次の5年間、10年間はどうかを最後に質問したいと思います。定住自立圏は地方創生の動きと並行して、地域が連携して自立していきましょうという大きな名目、目的の中で動いてきましたが、これから状況がもっと厳しくなると認識しています。資料4-1の3pに総人口の推移がありますが、平成7年から25年間で10万人の人口が減っている一方で、これからは15年間で10万人の人口が減ることとなります。経済が縮むスピードが10年早まるというイメージなのですが、その意味でもこれからますます連携が重要になる中で、この懇談会はどうか。また、資料4-2を見ると5年間で44億円というお金を使って事業を行っていますが、これからもこうした取り組みが継続できるのか、また新たな事業ができるのかについてお聞きしたいと思います。

最後に、今回の資料の中には明るい材料もあり、資料3の17pに「移住・長期滞在の推進」の取り組みがA評価で、たくさんの方がこの地域に移住してくれているという実績が出ています。ぜひ移住者の方々にアンケートなどで意見を聞いて、「なぜ徳島に来てくれたのか」、「なにが決め手でこの地域を選んだのか」といった意見を集約し、ぜひ次の事業に活かしていただきたい。単発で終わりではなく、次に繋げていけるような施策、事業ができていけばと思います。

(事務局)

各市町村において、国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を勘案しながら、それぞれ第2期総合戦略の策定にとりくんでいるところで、地方創生にますます力を入れていかなければと思っ
ているところです。第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンを策定した時と比べ、地方創生の
動きはかなり活発になってきていると思いますので、次の第3次共生ビジョンに向けまして、来年
度、本日いただいたご意見を踏まえながら、策定に取り組んでまいりたいと考えております。

(会長)

委員の皆様のご協力によって、時間内にすべての委員から意見を頂戴することができました。進
行を事務局へお返しします。

(企画政策局次長)

ありがとうございました。頂戴いたしましたご意見等につきましては今後の取組の中で検討させ
ていただきたいと思います。委員の皆様におかれましては、今後も引き続きご協力賜ります
よう、よろしくお願い申し上げます。

(事務局)

委員の皆様に、本日の会議録確認についてお願いがございます。後日、事務局から委員の皆様に
会議録の案をお送りさせていただきます。お手数ではございますが、ご自身の発言部分につきまして、
ご確認を頂き修正等がございましたらご返答いただきますようお願い申し上げます。事務局からは
以上です。

(会長)

ただ今の件につきまして、お忙しい中ではございますが、確認修正をお願いいたします。それで
は以上をもちまして第10回徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を終了いたします。あり
がとうございました。

以 上